

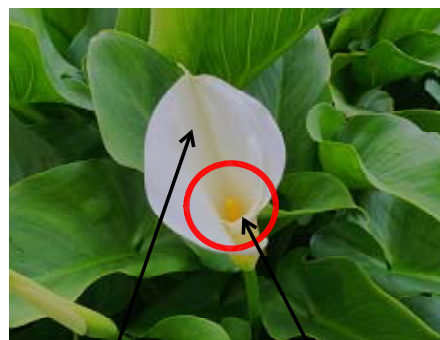
カラー（畑地性）の育て方

1 カラーとは

南アフリカ原産のサトイモ科の半耐寒性球根植物で、湿地でよく育つ「湿地性」と、乾燥した土地を好む「畑地性」に2タイプに分けられます。

葉は楕円形、矢じり型、ハート型などがあり、白い斑点が入ることが多いです。主な開花期は、春～初夏（4月中旬～7月中旬）で、漏斗状の花を咲かせます。

この部分は、苞（ほう）と呼ばれる葉が変化したもので仏炎苞（ぶつえんほう）と呼ばれ、色は白、黄、ピンク、紫などがあります。本当の花は、苞の中心にある棒状の部分で肉穂（にくすい）と言います。



【仏炎苞】

【肉穂】

2 畑地性の特徴

湿地性に比べると若干、暑さや寒さに弱く、適湿な土壌を好みます。逆に湿り気の多い場所では、球根が腐ってしまうので注意が必要です。主な開花期は初夏で、花色が豊富でバラエティーに富みます。

3 主な作業

枯れた葉や花は、こまめに取り除くようにします。花が傷み始めたら花茎の付け根から切り取ります。ただし、花が終わった後も葉は球根に栄養を取り込むために重要なので、切らないようにします。

4 置き場所

春と秋は日当たりのよい戸外で育て、真夏だけは、夏の暑さにやや弱いので直射日光を避け、軒下などの半日陰の涼しいところで管理します。ただし、極端に日当たりが悪いと花が咲かないことがありますので、注意してください。

夏は、鉢を風通しのよい半日陰の場所に置いて、土の高温多湿と乾燥を防止します。

秋になると、地上部の葉が枯れて地下で球根が休眠します。冬になったら鉢を室内に移動させて球根を凍らせないように越冬させれば、来春も花を楽しむことができます。

冬に開花している鉢を購入した場合は、日照を好むので日当たりの良い窓際に置きます。

5 水やり

春～秋の生育期は、土の表面が乾いたらたっぷりと水を与えます。球根が休眠している状態では、極端に乾かさないう程度に水を与えます。常に土がじめじめと湿っているような状態にすると、球根が腐りやすくなるので注意し、やや乾かし気味に管理してください。

6 肥料

追肥として4月～6月の間、月1回のペースで、固形の肥料を適量株元に施します。